

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和8年7月17日(金)

みんなの居場所

いよいよ夏休み

子ども達も楽しみにしていると思いますが、夏休みは計画的に過ごす必要があります。遊びの目的があれば、集中して取り組むことが出来るのが夏休みです。たまに無計画な夏休みを過ごす子どもを見かけますが、それが原因で、夏休みの終わりに泣きながら宿題をこなしている子どももいます。府本小学校の子ども達にはそのような姿はほしくないものです。保護者の皆様も立場になって考えてみます。夏休みなんて無くていいのに……」という声も聞かれます。

夏休みに入るにあたり、保護者の皆様へお願いです。私達教師が長期休業中に心配していることは、児童の事故やケガ、病気です。毎年、夏の時期になると水難事故、交通事故、熱中症等の悲しい事故や事件が報道されます。これらは決して対岸の火事ではありません。府本小学校の児童にも起こり得ることなのです。自分事として捉え、予防策を家庭でも話し合ってみてください。

また、学校の健康診断等も指摘された体の異常、特にシシ黴の治療が終わっていない子は通院を、充実した夏休みを過ごせるように、我々も危機感を持ちつついそいそと準備にやっています。

私は節約の夏休みになりそうです。いすれにせよ、夏にしかできないこと、考えてみるのもいいかもしれません。時間を無駄にしないように願っています。

毎年8月1日の平和記念式

年齢を重ねるにつれ、8月1日の平和記念式は深くなっています。平和についてある。

私の母方の祖父はフィリピン(マニラ)で戦死しているのだが、母には祖父の思い出はなく、抱っこされたこともない。出征の時、母は生まれていなかったのだ。そんなことが戦時中には当たり前のように起こっていたらしい。母は9人兄弟姉妹の末っ子で、その面倒見は姉ばかりだった。だからどうにか、母と祖母は仲が良かった。その中で母だけが自分の父の姿を知らないのだから、特別お盆には祖父の事が話題になることがある。母は「うん。」「やっは会いたか。」「戦争は歴史上の出来事であり、」だろわは「の話は意味がないが、戦争をええなかつたろう……」と思うことがある。

過去を悔いながらも未来は変わらなないので、明るい未来、平和な未来を創っていくために私達には何が出来るのだろうか。担任時代に行った授業に、印象深いものがある。ある児童がこう発言した。

「隣の人と仲良くすれば、平和になる。」

この発言を基にして、多くの児童がその中味について掘り下げていった。結局は、自分の隣人と仲良くすること、多くの人が手を繋いでいくことによつて日本が、そして世界が平和になっていくことなのだ。確かにそうだ。納得のいく発言だった。不思議なこと、その後の学級の雰囲気は、誰もが周りの人達を大切にするという空気が漂い、優しい言動が増えたことを覚えている。

「世界の平和」と大題目を掲げ、人類が大変な努力を繰り返しているのだが、解決方法は意外とシンプルな方法しかないと思う。しかし、各国指導者が「自国ファースト」を掲げるものだから、そのシンプルな方法が中々世界に広がっていかないのが現状だ。やはり、教育が担うものは大きい。学校や集団活動をする中で、友達と仲良くやっていく、人間関係をうまく調整していくことこそが、社会全体を平和に創造していく第一歩の重要な気がする。子ども達には「身近な人と仲良く」してほしいものだ。

シリーズ「自分を語る」#114

その年も「キャン」で「ナイトハイ」を満ちた実施し、子ども達保護者の皆さんと一緒に、掛け替えのない時間を過ごしました。ただ、その年の学級集行はなかなか言葉は運動が苦手という、持力者が無いという、強豪会では子ども達の背中を押しながら歩く場面も多かった年でした。さて、夏休みが終わると、私の校務である研究のお仕事が続いていきます。

研究発表が十一月と考える待った無しで準備を進めなければなりません。夏休み中は何度も校長室へ通い、数日間の校長先生自宅での合宿の様な業務……。大変勉強になった時間でした。研究発表の当日、もう「なるよう」なる「いや」なるようにならなくてと聞き直り、発表を挑みました。無我夢中で機嫌を崩して、まあ何とかなるものだなあと改めて思いました。今になって考えてみる「何とかかな」と思えたのは、私を助けた教職員集団がやるべきことを徹底的にやったからなのではないでしょうか。「人事を尽くして天命を待つ」ということが出来たのだと思います。

研究発表が終わると、ホッと息……。とほろほろと泣きました。いつか私にとって伊倉小学校は6年目でした。玉名町小学校から数えて玉名市在任期間が15年目となっていました。人事異動の取り決めで、同一市町村在任15年が上限とされていたのです。そこで、私は玉名市最後の年を迎えていたのです。因みに、同一校在任の期間は原則7年です。私の場合、玉名町小学校にはつづいて9年間お世話になりました。この事を考えると、残された時間を無駄には過ごせません。子ども達に「このクラスで良かった。」「澤田先生が担任で良かった。」「思えてみよつ、記憶にも記録にも残るような学級経営をしていこうと、何をすれば子ども達が喜ぶか、勉強を頑張るか、そんなことばかり考えるから時間を過ごしました。

時間が過ぎるのは早いものです。あつとつ間に3月が来たような感じがしました。もう少しこの学校にいたいという気持ちが半分、次はここに行くのかという期待半分、不安も少しあったかもしれませんが、校長先生には「少しでも自宅に近い方がいいです。」「希望を伝えていました。玉名市以外の玉名管内の市町は限られています。希望は希望として校長先生に伝えた「少しでも自宅に近い」ことに対する淡い期待を抱きつつ、本人内否日を迎えました。「失礼します。」「澤田先生、申し訳ない。遠くならた……。」「で、どうですか。」「荒尾市立中央小学校です。」「遠く……」

通勤の距離が長いのはきついですね。それまでの通勤距離は約20分、中央小学校へは30分程度あります。それがフレッシャーでした。幸いにも知っている先生方が数多いというだったので心の支えでした。中央小学校に挨拶に行くと、早速校長室へ通われるようになっています。(つづく)